

ニューノーマルとは

「ニューノーマル」という言葉自体は、新型コロナウイルスの発生以前から存在していました。初めて「ニューノーマル」という言葉が使われたのは、インターネットが普及した 2000 年代初頭です。投資家のロジャー・マクナミ氏が「ニューノーマル」という言葉を使いました。ネット社会が到来したことにより、これまでのビジネスモデルや経済論理が通用しなくなるという考え方でした。

そしてリーマンショック後の 2009 年には、エコノミストであるモハメド・エラリアン氏が著書内で第二の「ニューノーマル」を提唱しました。経済が深刻な金融危機から回復したとしても、根本的な課題解決に至らない限りは元の社会には戻らないと論じたのです。実際、リーマンショックで痛手を負った事により人々の意識は大きく変わりました。資本主義社会から持続可能な社会への変革が進みました。

そして 2020 年、新型コロナウイルスが世界中にまん延したことで、第三のニューノーマルが求められるようになりました。インターネットの活用により働き方、生活様式がより良い物へと変革が求められるようになりました。

◎ニューノーマル時代の社会の姿

リアル空間とサイバー空間の融合による「繋がる」社会が到来すると考えられています。手軽に楽しむバーチャルサービスと感動の空間を共有するリアルサービスの融合による相乗効果が期待されるほか、グローバリズムとローカリズムの融合や、私的空間と公的空間の融合も日常の姿になっていくと考えられています。その結果として、新たな日常に適応したサービスが生まれるほか、生産や消費の仕組みも大きく変化していくことが予想されます。

このような社会の変化に応じて、新たな競争が生じると考えられます。その新たな競争により、新しい起業家や民間のイノベーション、新たな組み合わせによる共感が期待されます。このような経済活動を生み出すためにも、世界をリードする新たな概念のデジタルインフラの整備が必要不可欠です。

◎ニューノーマル時代の生活の姿

様々な生き方の選択肢が提供される「広がる」生活が到来すると考えられています。働き方や遊び方、学び方が多様になり、テレワークを活用し、余暇を楽しみつつ仕事を行う「ワーケーション」や、自宅でも職場でもない「第三の空間」など、個人個人の選択によって、多様な選択肢の中からライフスタイルを選択できるようになるでしょう。居住地の選択や、通勤通学の為の移動、旅行にあたって、多様な選択肢が提供されることで、混雑も標準化され快適な空間が実現されるでしょう。文化や教育、医療や福祉についても、空間制約に縛られずに個人の特性にあった多様な選択肢を享受することができるようになるでしょう。

◎ニューノーマル時代の課題

生活の変化に伴って新たな課題が発生し対応していかなければならないでしょう。特に対応すべき課題は「新たな格差」です。新たに生まれる格差の一つは、先にDX(注1)に対応できた人たちと出来なかった人たちの格差です。適応時期に差が生まれれば、その格差は社会を不安定にさせるほどの格差になります。さらに対応すべき課題は、DX社会において、様々なサービスが生まれる中で、これまで想定していなかったような新たな弱者が生まれる可能性もあります。これまで弱者と言われていた人達の一部は、DXにおける新技術で解消される部分もあります。例えば通勤の解消は、移動に制約の弱みを開放するでしょう。一方で、生活の劇的な変化や新

技術、新サービスの登場によって新たな弱者が生まれ、DXに取り残されてしまう人達が生まれてしまうかもしれません。このような格差への対応がなければ、ニューノーマル時代の社会を不安定なものにしてしまいます。誰もが取り残されない新たな概念の整備が必要不可欠です。

(注1)DX=デジタルトランスフォーメーション…進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良い物へと変革すること。

◎ニューノーマル時代に向けて

新型コロナウイルス感染症への対応を契機として、改めてDXへの流れと、ニューノーマルに向けたIT政策のあり方が問われているといえます。世界中が時を同じくして、ニューノーマルへの移行が求められていると言え、私たちは、まさに新たなスタートラインに立っています。仮にコロナウイルスが終息しても、確実に次の危機は発生するでしょう。歴史を振り返れば、様々な危機に対して、人類は社会の仕組みを大きく変革させて乗り越えてきました。私たちもニューノーマルに向けて、スタートを切らなければなりません。

そして、このようなニューノーマル時代の新しい社会を実現するためにも、人材教育やリカレント教育(注2)が不可欠です。また社会の理解や協力も必要で、この面でも教育が重要であると言えます。

ニューノーマルへの移行は不可欠であり、また移行後に私たちが享受できる恩恵も極めて大きいです。ニューノーマルへの円滑な移行のためにも、先ず必要なIT政策がスピード感を持って進めていかれるべきでしょう。

(注2)リカレント教育…生涯にわたって教育と就労のサイクルを繰り返す教育制度。

◎ニューノーマル時代の具体像

・新しい住まいのあり方

郊外へ移住、リフレッシュの為の自然環境、パーソナルスペース/ワークスペースの確保等

・新しいオフィスのあり方

開放的・分散的なレイアウト、拠点の分散化・シェア化、転勤・単身赴任の減少等

・オンライン化の定着

あらゆる接点がオンラインに(医療、教育、公的手続き等)

・バーチャル空間/体験の普及

VR/ARによる新たなバーチャル体験の広まり、バーチャルならではの付加価値等

・リアルな体験価値の再認識

野球や歌劇、旅行等、リアルな体験でしか味わう事ができない喜びや感動の渴望

・オペレーションの省人化

自動化や遠隔化による、人同士が接しない無人才オペレーション

・パーソナルモビリティの普及

3密を避けた移動手段の広まり、混雑を避けた快適な移動空間